護岸と生態系保護両立

福井工業 工法開発

福井工業（本社・札幌）は、かごマットや布団かご内に透水性管路を埋め込んだ「リバーライズかご工法」を開発した。透水性管路が魚巣の役割を果たし、護岸の機能を損なうことなく生物の生息環境を創出できる。6月11日付で国土交通省の新技術情報提供システム（NETIS）に登録。生態系を保護する新たな手法として関心を集めそうだ。

被災河川復旧工事などで高い効果期待

かごマット内に透水性管路

同社は、道内や本州で石割り、石・ブロック積み、庭石の施工などを手掛ける企業。護岸や道路擁壁、神社の石垣などを施工する傍ら、漁業関係者の声をヒントに環境保護に寄与する工法開発も進めている。

リバーライズかご工法は、同社が開発した石積み工「リバーライズストーン工法」をかご工に応用した。かごマットや布団かごに透水性管路（魚巣）を埋め込むのはストーン工法と同じ。

編目の外側に管路が出ていて、かごの端部の管路から水を取り入れ、前面に付いている管路から排出するため、泥の堆積で管路を閉そくさせない仕組み。管径はかごマット50ミリ、布団かごが50―75ミリで主に小中型魚類の生息に対応。災害等で生態環境が失われた河川などの復旧工事で高い効果が期待できる。

施工方法は、一般的なかご工に硬質ポリ塩化ビニール管を組み込むだけ。特別な材料・機材は不用。中詰め剤は15―20センチの割栗石を使用、上面パネルを取り付けて、中詰め材料の流出を防ぐ。拘束力が弱くなるため空隙を少なく施工するのがポイントだ。

東京都内の黒目川での実験では、中詰め石の隙間を上回るサイズの大型魚類が生息していることを確認。かごマット内の石と石の間にも多くの生物がすみ着いていて、従来技術より生物の多様性に寄与できることが分かった。

12月に埼玉県発注工事で採用予定。福井誠社長は「異常気象で治水の重要性が増す中、生態系保護も重要な観点。同じ護岸工事であれば、環境と共存を図れる工法が普及してほしい」と期待を寄せる。

実際の施工例

建設重機にB50燃料活用

西松建設が実証実験　CO_2排出、大幅削減

西松建設は、軽油に高純度バイオディーゼル燃料（リーゼル）を50％混合したB50燃料を建設重機に使用する実証実験を進めている。バイオディーゼル燃料5％混合軽油のB5燃料に比べ、B50燃料は約10倍のCO_2削減が可能。8月から10月にかけて3000リットルを消費する予定だ。

リーゼルは、廃食用油を原料として製造したバイオディーゼル燃料を減圧蒸留と静電気浄化処理し、エステル成分の純度を最大99・9％に高めた高純度バイオディーゼル燃料。一般社団法人リーゼル協会が

現場ペットボトル再生へ

大成建設は、軽油に高ラボトラ

地方自治体に向けたAIマニュアル開発へ

RKKCS 25年4月提供目指す

会場で時事通信の取材に応じたRKKCSの徳山泰之企画室長は「これは初めの一歩。二歩目、三歩目は（生成AIを）基幹システムとつなげて

に向け、いろいろな技術を持つオラクルと相談しながらやる」と述べた。具体例として、EBPM（証拠に基づく政策立案）やデータ利活用を挙げ

を出展した。

水害への備えとして「ガデリウス・インダストリー」（本社・東京）は、簡単に持ち運べ、並べて設置するだけで高さ1メートル

示。「メッツ」（本社・東京）は、端末装着者のモニタリングデータをAI解析し、熱中症や体調不良のリスクを事前に予測するシステムを紹介した。

危機管理ユーションONE（立集落への などに役ン（最大